

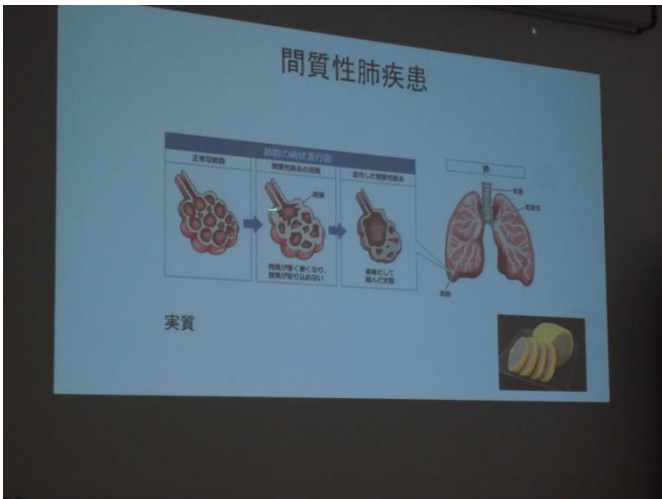
教育研修会

日時：R1 年 8 月 1 日（木） 17 時 00 分から 17 時 40 分

場所：新王子病院 4F 会議室A

症例：特発性間質性肺炎・肺線維症

講師：JCHO九州病院腎臓内科 田村 泰久先生



H30 年（64 才）に九州病院呼吸器科にて間質性肺炎指摘される。気管支鏡による肺胞洗浄液の性状より膠原病やアレルギーなどは否定的で、特発性肺線維症と診断され定期加療される。今回のエピソードとして、H31. 1.24CTにて両側の間質性陰影の増強を認め、1.29日に九州呼吸器科入院。肺炎悪化にて2.11日死亡された症例でした。今回はその間質性肺炎について講義していただきました。間質性肺炎（特発性）は難しい疾患ではありますが、からしレンコンを例えた解剖での説明や原因・合併症などとてもとても理解しやすい内容でした。この疾患は合併症や急性増悪するリスクも高いことや年間に5-15%が肺癌の合併率があるとの事でした。田村先生も早期発見と早期対応が大事だと痛感されたそうです。